

言い訳

最後にこのコラムを書いたからまる 1 年になります。まったく書かなかったわけではなく、下書きはしていたのですが、書きだしたまま「まとめきれずに」時間が経過してしまったものがいくつかあります。なかには、その後の経過を書こうと待っているうちに、まとめるタイミングを失ったものもあります。

書こうか書くまいか、迷っていたものの最大のもの、皇室についてです。皇室に対する悪口雑言がまれにみられますが、皇室の方々は、反論しようにもできないし、してはいけないようです。……そういう立場の方に対して罵るというのは、匿名で弱者を責める連中とおなじく、単なる卑怯者にすぎない。たとえば、いま、新型コロナウイルス肺炎について、医療関係者は、一方では **Clapping for carer** で市長や公的機関の職員が手を叩いてその功績を称えることが世界的におこなわれている。ところが、その子供達を保育所で預からないといういやがらせが、公然とおこなわれている。……手を叩くよりも危険手当をだしてくれ、と言いたくなる。安倍さんが 4000 円と言ったが、1 桁違う。そういう命懸けで仕事をしている人々に対し、あまりにも実情を知らずに勝手なことを言いすぎているのではないか？ 差別だ！という人もいる。

NIMBY というが、病院が家のまえにあると便利なこともあるが、救急車のサイレンがうるさいという。ゴミ収集所がすぐ近くにあれば便利だが、遠いところから運んでくる分には、やれ道路がよごれる、だの、臭いがくさいだのというのと同じである。ゴミ収集をしている方々に対する敬意の念が全くみられないから、ゴミ分別ができない。一度経験したことがあるのだが、学校の教師というのが、最も性質が悪い。

現上皇、と上皇后は、戦後 13 年経過してから公務をはじめられたのであるが、その人柄そのままに、戦跡を訪ね歩かれ、また被災地を励ますために阪神や東北地方や豪雨禍の地を見舞われた。遠く外国への訪問に際し、たとえば米国では、戦争中に財産も土地も奪われ、不自由な生活を送らざるを得なかった人びとを見舞われ、部屋を後にするときにあるおばあさんと握手をされて労った（ねぎらった）のであるが、このおばあさんの息子さんが、唯一、米国国籍の特攻隊員だった。誰も気がつかなかったのだが、偶然である。

新しい天皇・皇后も、基本的にはおなじことをするわけだが、戦争を知って

いるかいなか、が大きな差である。皇后は、精神的に不安定な時期があったのだが、皇后になられてからは、そういう面はみられないようだ。精神科の主治医はなにをしていたのか？ 一つだけ書かせてほしい。皇后の父親はハーグの国際裁判所の判事に就任したが、これは、辞退するべきだった。美智子妃の御両親は、皇族につらなることを利用しなかったし、それほど頻りに会われたわけではないという。現皇后のおじいさんが、水俣病の日本チッソの社長をされたそうだが、被害者に対しての補償を中心に仕事をされたという。ところが、これがネックになって、破談になりそうになったことがあるが、このとき、ほとんど蟄居状態ですごされたという。父親とは、正反対の姿勢であった。(この部分、少しうろ覚え)

現天皇夫妻は、女兒しかできなかった。そこで女系天皇の話がでてきたのであるが、ぼくは女性天皇はかまわないが、女系天皇は大反対だ。

もうほとんど知る人はいないだろうが、戦前、日本四大逆賊というのがあった。このうち、足利尊氏は、武家連中からあと押しされ、気前が良く、人望もあったことから、逆賊とよぶのは酷だ、ということから、三大逆賊になった。順に、弓削道鏡、明智光秀、出口王仁三郎である。

道鏡は、呪術をもって天皇や貴族から信頼され、(いわばロシア革命前夜のラスプーチンのようなもの) 孝謙天皇を焚きつけて、みずから天皇になろうとした。孝謙天皇は悩んだ末、和氣清麻呂を使者として宇佐神宮まで行かせてその是非(神意)を判断することにした。和氣清麻呂が偉かったので、道鏡は天皇になれなかった。清麻呂姉弟がにくくてしかたがないが、せいぜい穢麻呂(きたなまる)などとわめいたり、嫌がらせをするしかなかった。……女系天皇にすれば、こういう人物でさえ天皇になる機会が生じるので、女系天皇制に反対なのである。現在の天皇のお嬢さんがいいとか悪いとかという話ではない。

明智光秀は、見た目もすがすがしく、紳士然として、博識で、礼儀作法も心得ている。信長には人を見る目があって、かなりの確に判断している。「明と智が、光り秀でている、か」とつぶやいたというが、その能力は、豊臣秀吉をも凌ぐほどであった。ただひとつ、性格的に、秀吉と比べて暗すぎたし、小心でもあった。律儀すぎたのやね。……だから出世については、秀吉とほとんど同じであり、強力なライバルであった。もう一つ言えば、本能寺の変のあとの戦略が、光秀ほどの人物にしてはあまりにも稚拙・粗雑に過ぎたのだと思う。それにしても織田信長は、猜疑心が強く、気まぐれで、偏執狂でもあった。チ

チャンスがあったら狙うかも知れない家来は、光秀のみならず、秀吉もそうだったかもしれない。光秀からすれば、天下をとりたい、しかもそのチャンスが眼前にある。一方的に責めて、逆賊というのもちょっと気の毒ではある。

3 人目は、大本教の出口王仁三郎である。秋山真之のところでも述べたが、日本最大の予言者であり、テレパシーも遠隔透視も、あらゆる「いわゆる超能力」にも長けていて、民衆の人気も 3 年で信者 800 万人という。宗教家としても芸術家としても優れていて、みずからを天皇に擬したとデッチあげられたのもやむをえないかもしれない。義母の出口なおも自動書記で、半紙 10 万枚におよぶ警告を書き残した。「立て替え立て直し」が教義のひとつ。それは、結局天皇制の批判ということになり、大正 10 年と昭和 10 年の 2 度にわたって大弾圧を加え、ほとんど壊滅状態にしてしまった。・・・吉川英治は、「千年に一人」といい、大宅壮一は、「今までに巨人と呼べる人を 2 人見た。ひとりはお師で、もうひとは大谷光瑞だ」と言った。巨大な人物であった。・・・大本教については、じっくり腰を据えて取り組まないと、一面だけみていたら、戦前、弾圧した官憲と変わらなくなる。おそらく、表面的にまとめるだけでも 3 年以上かかるだろう。

もうおわかりだろうが、女系天皇制にすれば、遠い将来、道鏡のように野心をもつ馬鹿者が現れてくるかもしれないから、反対なのである。現在のお嬢さんを女性天皇とするのには反対しないが、そのあとを必ず男性天皇にもどすのが、皇室の伝統である。

というわけで、いろいろ考えてはいたのですが、8 月に病気があることに「運よく」気が付いて、この治療や手術にたえられるかなどの検査のため、落ち着かず、結局、手術は 3 月になり、十分な回復の前に、健康診断の予約の方を優先したため、1 年間書けなかった次第です。体力気力の回復次第で、もう少ししたら書けるようになると思います。現在で、術前の半分くらいの回復です。

令和 2 年 5 月